

委員会報告

2019～2020年度

No.1

第4回

委員会名 GMTクラブ合併検討委員会

委員長名 L 高桑昌彦

開催日時	2019年11月15日 金曜日 15時45分～17時30分					
開催場所	東京都中野区本町2-29-12 株式会社東京富士カラー 会議室					
出席者	×	伊賀地区ガバナー	×	進藤第1副地区ガバナー	×	中井第2副地区ガバナー
	○	委員長 高桑昌彦 L	○	副委員長 西脇和紀 L	○	副委員長 金岡弘大 L
	○	副委員長 松浦卓司 L	×	副委員長 市岡隆志 L	○	副委員長 樋口昇 L
	×	委員 佐藤壘 L	×	委員 宮本正好 L	○	委員 藤田紘子 L
	○	委員 平田桂子 L	○	委員 佐々木伊知男 L	○	委員 高橋景 L
	○	委員 相野谷信之 L	×	委員 池田佳織 L	○	委員 中村和男 L
	○	委員 大山巖 L	×	委員 松本万紀 L		
	○	キャビネット副幹事 葛西智子 L				
	出席オブザーバー					
	○	GMT330複合地区コーディネーター 石井征二 L				
次第	司会・進行【副委員長 樋口昇 L】					
1	委員長挨拶					
2	ご挨拶					
3	配布資料の確認					
4	議事					
5	次回日程について					
6	閉会の挨拶					
議題	審議経過事項の概要					
1	<p><委員長挨拶> 【委員長 高桑昌彦 L】 当委員会から依頼したアンケートに対しては75件もの回答があり、訪問を要望しているクラブもあるなど想定以上の反響となっている。本日で4回目の委員会となり、各委員間の懇親も深まっているように感じられるので、引き続きよろしくお願ひしたい。</p>					
2	<p><ご挨拶> 【GMT330複合地区コーディネーター 石井征二 L】 蔵前LCでは解散の話も上がっており、合併は近年関心が高まっているテーマである。当委員会は有意義な委員会である。</p>					
3	<p><配布資料の確認> 【副委員長 松浦卓司 L】 本日の配布資料につき、以下の通りであることの確認がなされた。 ①会議次第 ②出欠簿 ③第3回委員会議事</p>					

議 題

<議事>

(1)アンケートの結果について

●アンケート結果の報告

【副委員長 西脇和紀 L】

以下の説明がなされた上で、コメントのあった回答内容が読み上げられ、報告がなされた。

- ・75件もの回答を得られた要因としては、チェックをするのみでも回答可能な回答が容易な形式であったことが大きな要因なのではないかと思われる。
- ・回答があったもののうち、コメントがあったのは十数件であった。
- ・訪問要望のあったクラブは1クラブであった。

●アンケート結果等を踏まえた検討

各委員から以下の意見等が述べられ、議論・意見交換が行われた。

【委員長 高桑昌彦 L】

会員の高齢化・減少が著しく進んでおり、このまま行くと解散せざるを得なくなるクラブが増加することは確実である。クラブの合併を推奨するものではないが、今後、合併が必要な場面は増えてくるのではないかと思われる。このような状況下では、当委員会には重要な意義がある。アンケートの回答結果を踏まえ、まずは、訪問要望のあった1クラブの例会日時を確認の上、2月～3月頃の訪問を検討することとしたい。

【GMT330複合地区コーディネーター 石井征二 L】

近年は、会員の増強をしてもそれ以上の退会があることが問題視されており、退会防止という観点でも合併という選択肢は重要性が高い。

【副委員長 樋口昇 L】

クラブの存続が危機的状況にあることを対外的に広く知られることのないうちに解散してしまうクラブもある。解散に至る前の段階で事前に存続が危ぶまれるクラブを把握し、合併等の提案を行うことも重要である。若い会員増強の成功例の1つとして、早い段階で若い会員に役職に就いてもらうということが挙げられる。そうすることで、他の若い会員の出席率が上がるという効果もある。

【副委員長 松浦卓司 L】

若い会員が増加しない大きな要因の1つとして、会費の負担が大きいということもあるように感じている。自クラブの会員はサラリーマンも多いため、そうすると会費の負担の問題が一層大きい。

【委員 大山巖 L】

退会する要因として、クラブが解散してしまった際に所属先がなくなり、やむを得ず退会するということもあるように思われる。例えば、他クラブとの合同例会を推奨して他クラブとの連携を強化し、他クラブに転籍する機会を与えることも必要ではないか。

【委員 藤田紘子 L】

他クラブの状況を知る機会が中々ないため、例会訪問をすることにも強い関心がある。

【委員 平田桂子 L】

自クラブでは、正会員が減少して賛助会員のみが増加するという非常に厳しい状況になっている。

【委員 佐々木伊知男 L】

”合併”というと非常に重い印象を与えてしまうが、ZCが各クラブの状況を踏まえて、解散の危機があるクラブを事前に把握することも重要ではないか。入会のハードルを下げ、若い会員を増加させて、幅広い年齢層で前向きに活動して行く流れを作ることも重要である。

議 題

【委員 中村和男 L】

会員の増強が難しい側面として、各地域にライオンズクラブの重鎮・纏め役が不在ということもある。
自クラブでは会費が20万円であったところを14万円まで下げたということもあるが、会費を下げることには限界もある。

【キャビネット副幹事 葛西智子 L】

合併の話が中断してしまった例として、合併を検討しているクラブ間にプールされているお金の格差が激しかったという例がある。

→【委員長 高桑昌彦 L】

クラブ間の格差が激しかったものの合併が成功した例として、京橋LCと八重洲LCの合併がある。このケースでは、お金の余力のあったクラブは、プールされていたお金を各会員の将来の年会費に充当する取扱いとした。お金の払い戻しを行うとそれで終わってしまい、退会する方向になりがちである。他方で、将来の年会費に充当する取扱いにすると、退会することなく所属し続ける方向に行くので、合併を成功させるノウハウの1つとして共有したい。

【委員 相野谷信之 L】

会員の減少が続いている流れの中でライオンズクラブの存在意義を高めていくためには、他の団体(JC等)との連携ということも視野に入れて行く必要もあるのではないかと。
過去の合併の例から感じることは、ゾーン内の各クラブの連携も非常に重要であるということである。

【委員 高橋景 L】

若い会員を増加させるに当たって、会費負担は重要な課題ではないかと思われる。
自分自身も当委員会に入るまでLCの”合併”ということがあったことを知らなかったため、合併の認知度を上げて、かつハードルを下げるということも重要であるように感じている。

【副委員長 西脇和紀 L】

単に合併するのみでは意義としては弱いと考えており、合併する中で若い会員も増強し、「入会しても良いな」と思わせるような魅力のあるクラブを作ることが重要ではないかと。
クラブの会員数も客観的な数字として重要である。数字を上げるための手段として、合併という方法も1つの選択肢であり、”合併”という選択肢があることを広めて行くためには、今回のように合併に関するアンケートを行いこれを継続して行くことも重要である。

(2)今後の活動について

【副委員長 金岡弘大 L】

11月25日 第1回ゴルフコンペ

12月9日 16時30分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室
18時00分～ 大忘年会

1月20日 15時45分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室

2月10日 15時45分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室

3月16日 15時45分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室

4月13日 15時45分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室

5月11日 15時45分～17時30分 キャビネット事務局 小会議室

6月15日 さよなら委員会 全員参加必須

議 題	5	<p><次回日程について> 日時:2019年12月9日(月) 16時30分~17時30分 場所:キャビネット事務局 小会議室</p>		
	6	<p><閉会の挨拶> 【副委員長 金岡弘大 L】 様々な課題があるものの引き続きライオンズクラブの発展にご協力をお願いしたい。</p>		
次回開催日時 場所	日時: 2019年12月9日 月曜日 16時30分 ~ 17時30分			
	場所: キャビネット事務局 小会議室			
		<table border="1"> <tr> <td>作成者</td> <td>L 高橋景</td> </tr> </table>	作成者	L 高橋景
作成者	L 高橋景			